

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立北日吉小学校

学級数

14

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

☆進んで学ぶ子
☆助け合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

具体的な取組（最も力を入れている点：C）

1 取組のきっかけ

本校では、「わかる・できる・楽しい」～学ぶ喜びを実感する授業の創造～を研究主題にし校内研究を進めている。わたしたちは、学習者としての子ども一人ひとりの側に立ち、一人ひとりに学びにおける達成感を味わわせることの大切さを理解している。しかし、自分たちの実践を振り返るなかで、様々な反省材料も多くあり、それを教師側から一方的にとらえたり、教師の目線でよさや課題等を判断してしまうことが多い。そこで、もっと子どもの側に立って授業を考え直してみる必要性を感じ、「子どもの目線を大切にしながら」を合い言葉にし、授業をとらえ創り上げていく研究に取り組んでいる。

2 取組の位置付け

研究部を中心にして、3ブロックに分かれて授業の改善充実に努めている。

3 取組の方法

☆児童一人ひとりが、「学ぶ喜び」を体感できる授業をつくるために。

(1) 子どもを確実にとらえる。

児童の発達段階の再確認→学級の実態との比較→一人ひとりの児童理解

(2) 教材との出会いの工夫

児童の心を揺さぶる課題の設定…好奇心・切実感・感動・驚き・疑問(矛盾)などの心の動きを課題に。

- ・課題自体の工夫
- ・課題の提示方法の工夫

(3) 生徒指導の機能を生かした場の工夫

児童の主体性と独自性をどのように発揮させるか。

- ・自分の考えを持つ
- ・体験的な学習を組み込む
- ・自分の考えを表す
- ・仲間と関わりながら考える
- ・自己決定の場を持つ
- ・教師のかかわり方（今年度の重点）…教師の「温かいかわり」が「学ぶ喜びを実感する授業」の土台になる。

教師の言葉と子どもの反応とを深く見つめ、どのように関わって効果的だったのか、どのように関わるべきだったのかを検証する。

(4) 授業評価の作成（子どもの声を授業改善に生かす。）

どのようにすれば子どもの内面の声を聞くことができるのか。

- ・学習の喜びを体感できたか、教師のとった具体的な手だては効果的だったのか。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

☆児童一人ひとりが、「学ぶ喜び」を体感できる授業を作るために。

◇ 子どもを確実にとらえる。

- ・低，中，高学年の児童の一般的発達段階の研修
- ・個別の様子から，そのクラスの子どもたちがどのような状況にいて，どんなことが可能か，またはどうすべきかを的確におさえた。（学級や学年，ブロックでの情報交換）

（成果）→ 一般的な発達段階をもう一度確認し，それがクラスという集団の中にどう表れているか，さらに一人ひとりの状態をつかみ，教材選択や学習形態の選択に生かしていこうとする意識が全体に高まり実践した。

◇ 教材との出会いの工夫

- ・子どもの学習意欲を高めるような課題の工夫。
- ・課題の提示方法で子どもの学習意欲を高める。
（キャラクターの使用，ストーリー教材の導入，ゲームでさいころを使うので作ってみよう，混み具合を比べる問題に修学旅行のお風呂を取り入れたなど）

（成果）→ 子どもたちの授業評価では，ほとんどの子どもが肯定的な意見を述べていた。課題や問題の提示時に，視覚にうったえたり，日常生活や学校生活にリンクしたものを取り入れたり，必要感を鼓舞したりすることは，子どもが主体的に学ぶ動機付けになっていたことがわかった。

◇ 生徒指導の機能を生かした場の工夫

- ・教師の言葉と児童の反応とを深く見つめ，どのようにかかわって効果的だったのか，どのようにかかわるべきだったのかを検証した。

（成果）→ 教師一人ひとりが，児童との“温かい”かかわり方をより意識して授業作りに取り組めた。「どんな言葉で，どんな表情で子どもたちに接することができるか」を考え，このかかわりを普段からの子どもとのふれあいの中で重視していくことで，「学ぶ喜びを実感する授業」の土台が作られていると考えた。

◇ 子どもの声を授業改善に生かすための授業評価の作成

- ・教師の具体的な手だてに対する評価を授業評価に組み込んだ。
- ・児童の発達段階を考えた授業評価のあり方を考えた。

（成果）→ 子どもたちの生の声、教師の思いもよらぬ事柄の記入など子どもたちの視点の鋭さに気づかされ，今後の授業を行う上でのたくさんの材料を手に入れることができた。さらに，教師が真摯な気持ちで子どもの意見に耳を傾け、授業改善に生かすことで，教師のさらなるスキル

○ 教育課程検証の方法

- ・時数の把握……学期ごとに時数集計表に記入し教務に提出。教務がP Cで管理する。
- ・C R T，全国学力学習状況調査問題・児童・生徒質問紙による検証
- ・学校評価，保護者アンケート，学校関係者による検証
- ・教員や児童による授業評価による検証
- ・職員会議（全体），教務内，学年団による検証